



L'IMAGINAIRE DE  
**HAYAO  
MIYAZAKI**

EN TAPISSERIE  
D'AUBUSSON

オービュッソン、  
宮崎駿の空想世界を  
タピスリーに織る



Cité internationale de  
la tapisserie Aubusson

オービュッソン  
国際タピスリーセンター

プレス資料

# 目次

オービュッソン タピスリーの新たな挑戦	4
大型組み物タピスリーの伝統への回帰	5
選択、引用された作品	6
組み物タピスリーの制作過程	10
シリーズ第1弾のタピスリー制作	12
プロジェクト進行スケジュール	14
宮崎 駿 プロフィール	17
プロジェクト進行スケジュール	18
プロジェクトをめぐって	19
実用情報	21



日本とフランスは、遠い昔から文化、歴史、国民の感受性、秀逸な技術とノウハウなどで、互いを魅了し合って来ました。今日これに加わったのが、両国が共有するイラストやアニメ映画への情熱です。

フランス中央部オービュッソンにある国際タピスリーセンターは、ユネスコ無形文化遺産にも登録されたその比類ない織物の技術を以って大規模なプロジェクトに取り掛かりました。世界的なアニメ映画の巨匠、宮崎駿監督の作品をシリーズでタピスリーに表現しようというものです。「オービュッソン、宮崎駿の空想世界をタピスリーに織る」と銘打ったこのプロジェクトは、国際タピスリーセンターとかの高名なスタジオジブリの間に結ばれた協定により実現しました。

公的機関<sup>1</sup>である国際タピスリーセンターがその総力を挙げた挑戦にあたって、以下のような請願を立てました。この企画が日仏両国を結ぶ文化と芸術の歴史の一部として刻まれること、また同時にオービュッソンのタピスリーとその技術の歴史に新たな1ページを開くこと。タピスリーの歴史に新たな意味づけを与えるこれら前代未聞の作品群は、あらゆる年齢層の関心を引き寄せるとともに、世界中を旅して展示されるという使命を負っています。その最初の行き先は日本です。

シリーズ第1弾『もののけ姫』のタピスリーのトンベ・ド・メティエ（織り上がったタピスリーを織機からはずす儀式）および完成作品のお披露目は2022年3月25日に行われ、多くのテレビ局が放映する一大イベントとなりました。YouTubeによるライブ中継はフランスでも日本でも大変多くの耳目を集め、オービュッソンのタピスリー史上最大のメディア露出を得たイベントとなりました。宮崎駿の作品をタピスリー化する試みは、衆目の一致するところ大成功を収め、とくに光の綾がタピスリーで表現されたことが高く評価されました。その後3作品が2023年上半期に相次いで織り上がり、残りの2作品『となりのトトロ』と『風の谷のナウシカ』は2026年に完成予定です。

宮崎駿の天才的な映像の数々をオービュッソンのタピスリー技術を以って解釈・表現するという挑戦は、140㎡を超える壮大な美しいタピスリーの作品を生み出すこととなります。これを機会に日仏両国のクリエイターの出会いや新たなプロジェクトも、現代の映像や空想世界とその織物による表現をめぐって増えて行くことでしょう。

2024年にはシリーズ作品の中から日本で初めて、「ハウルの動く城（夕暮れの動く城）」のタピスリーが、広島県立美術館で展示されました。2025年には、映画『千と千尋の神隠し』の一場面を取ったタピスリー「カオナシの宴会」が名古屋市の愛知県美術館に貸し出されます。また、タピスリー『もののけ姫』は、2025年の大阪万博のフランス館入り口に展示され、フランスと日本の比類のない文化的、芸術的協力の成果を数百万の来場者に示すこととなります。

オービュッソン国際タピスリーセンター 館長  
エマニュエル・ジェラル  
Emmanuel Gérard

## オービュッソンタピスリーの新たな挑戦

オービュッソン国際タピスリーセンターは、株式会社スタジオジブリとの協定に調印しました。日本のアニメ映画の巨匠、宮崎駿監督の作品の名場面を、シリーズでオービュッソンの巨大タピスリーに表現していくものです。

ヌーヴェル・アキテーヌ地方オービュッソンにある国際タピスリーセンターは、2009年にユネスコ無形文化遺産にも登録されたオービュッソンのタピスリーの保存と広報宣伝を担う機関です。

国際タピスリーセンターは、過去10年以上にわたり世界に知られるこのフランス伝統技術の評価を高めることに尽力して来ました。活動の柱は以下の4点です。「フランスの美術館 Musée de France」ラベルを受けた主要作品コレクションの保存と公開。タピスリー制作関連業の保存と後継者の養成（リムーザン地方のGRETA～成人のための職業訓練機関～とともに工芸職人免状を交付）。現代にふさわしい基金創設のための意欲的な政策展開。ユニークなノウハウを活かしてオービュッソンとフェルタンー帯のテキスタイル芸術／織物芸術のエコシステム開発。

国際タピスリーセンターが初めて組み物の巨大タピスリーを発表したのは2017年のことでした。「オービュッソン、トールキンを織る」と銘打った企画の目的は『指輪物語』などで知られる英国人作家 J. R. R. トールキンのオリジナルイラストを基にした14点の大型タピスリーと2点のカーペットの創作でした。最初にできた数点はパリのフランス国立図書館（BNF）で2019年から2020年にかけて開催された大トールキン展で公開されました。このタピスリー展は、2024年夏にオービュッソンで開催され、非常に好評を博し、国際タピスリーセンター開館以来、最も多くの来場者を記録しました。

同様の企画として2019年7月には国際タピスリーセンターとスタジオジブリの間で協定が調印され、宮崎駿監督のアニメ映画から題材を得た巨大タピスリーの制作プロジェクトが決まりました。「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」と題したこの企画では6点の巨大タピスリーが制作されることになり、センターの技術陣が題材として選んだ映画中の場面がスタジオジブリにも承認されました。

国際タピスリーセンターの方針としては、媒体への新しいアプローチによって広い客層にアピールし、この大プロジェクトとその舞台裏を知ってもらうことを目指します。こうした方針に基づく巨大タピスリー制作は、同時にまたセンターの比類ない技術をもってすれば野心的な現代作品制作も可能であると示す機会にもなりました。

このプロジェクトはメディアにも大々的に取り上げられ、中でも日本の公共放送であるNHKが、宮崎駿の作品がオービュッソンのタピスリーに変身するさまを取材し、ドキュメンタリー番組として放送しました。

## 大型組み物タピスリーの伝統への回帰

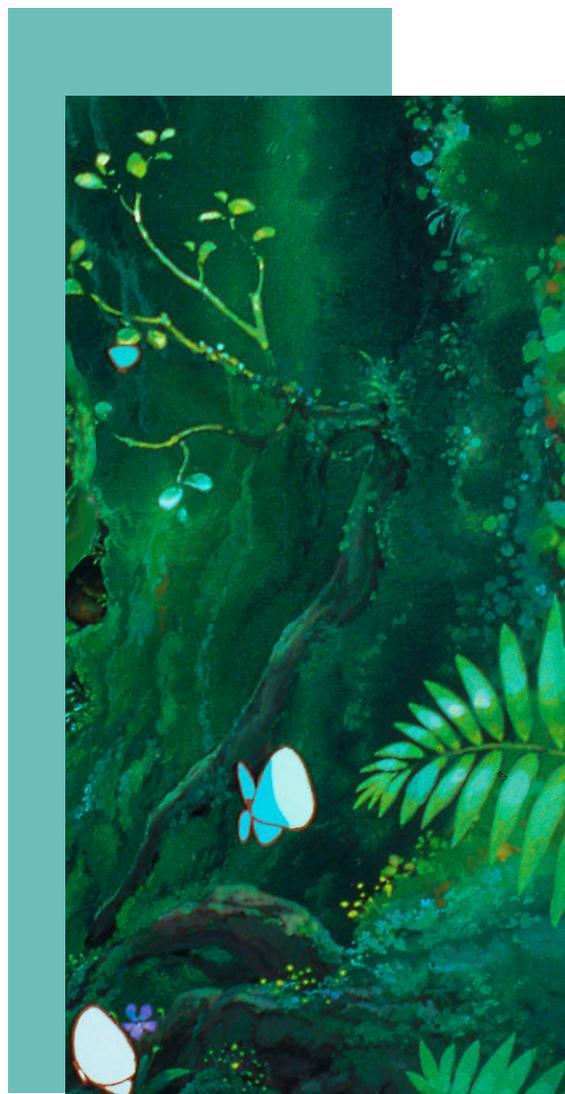
国際タピスリーセンターによる大型組み物タピスリープロジェクトは、巨大織物制作の世界に人々を没入させたいとの意図に応えるものです。

これらの作品は、17～18世紀の叙述的大型組み物タピスリー（物語の中の様々な挿話を描いた連作タピスリー）の伝統に新たに加わるもので、当時は重要な文学作品（ホメロスの『オデュッセイア』、トルクアート・タツの『エルサレム解放』中のリナルドとアルミーダの挿話など）に題材を得て制作されていました。しかしこうした叙述とタピスリーとの直接的な関係は19世紀になると消滅していったようです。

タピスリーセンターが始めた大型組み物作品の制作は、文学や映画などさまざまな表現形態を通して、物語性との関係を再び取り戻そうとしています。

今回の新プロジェクト「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」は、アニメ映画の巨匠、宮崎駿の世界を6点の大型組み物タピスリーに転写することにとりわけ強いこだわりを持っています。アニメの世界をこのようにタピスリーに転写するというのは、極めてまれなことなのです。

国際タピスリーセンターは敬意を以って、ユネスコ無形文化遺産であるオービュッソンのタピスリーと宮崎駿のグラフィック作品との文化的交差に取り組んでいきます。この大型組み物タピスリープロジェクトは、その巨大さゆえに、宮崎駿の創作物の中にこれまでなかったような没入体験ができることとなります。タピスリーとは長らく存在するために制作されるもの。シャルル・ル＝ブランの絵による『アレクサンドロス大王物語』（18世紀）やイザーク・モイヨンの絵による『ユリシーズのオデュッセイア』（17世紀）などのタピスリーと同様に、宮崎駿の叙事的、舞台空間的、画像的な世界が彼のアニメ映画とともに時代を超えて存在し続けるのです。



# スタジオジブリの名作映画から タピスリー用に選ばれた場面



「呪いの傷を癒すアシタカ」、タピスリー制作サイズ 5 x 4.60 m © 1997 Studio Ghibli-ND

## もののけ姫、1997

機織り開始: 2021年3月  
織り上がり: 2022年3月25日

### 場面の概要:

悪魔に取り付かれた巨大猪のタタリ神が若い戦士アシタカの腕を傷つけました。呪いを受けたアシタカは、これを解く方法を見つけないと死んでしまいます。アシタカは自身と故郷の国に降りかかった脅威に打ち勝つ希望を胸に、相棒の大力モシカ、ヤックルの背に乗って西へと向かいます。スギの森に身を隠したアシタカは冷たい水で腕を癒すのでした。



「カオナシの宴会」、タピスリー制作サイズ 3 x 7.50 m © 2001 Studio Ghibli-NDDTM

## 千と千尋の神隠し、2001

機織り開始: 2022年1月  
織り上がり: 2023年1月20日

### 場面の概要:

カオナシは豚に姿を変えられた両親をさがす千尋を手伝いますが、巨大な大食漢になって行きました。宴会を荒らしまくり、千尋を出せと要求するカオナシ。千尋が河の神にもらった薬草団子を食べさせると、カオナシはそれまでに飲み込んでいた人々をすべて吐き出します。



「ハウルの動く城(夕暮れの動く城)」  
タピスリー制作サイズ 5 x 5 m © 2004 Studio Ghibli-NDDMT

## ハウルの動く城、2004

機織り開始: 2022年6月  
織り上がり: 2023年4月21日

### 場面の概要:

ソフィーは18歳の娘、それが荒地の魔女の魔法によって90歳の老婆に変えられてしまいます。彼女は住んでいた町を離れてカブの頭をもつカカシに会い、動く城へ行く道を教えられます。それこそは、若く魅力的で謎めいた魔法使いハウルの住む城だったのです。



「ハウルの恐れ」、タピスリー制作サイズ 3 x 5.60 m © 2004 Studio Ghibli-NDDMT

## ハウルの動く城、2004

機織り開始: 2022年6月  
織り上がり: 2023年6月16日

### 場面の概要:

鳥に姿を変えた魔法使いハウルは戦闘から疲れきって帰って来ました。おまけに城を掃除したときにソフィーが彼の持ち物を動かしたため、ハウルの金髪が黒髪に変わってしまいます。すっかりしょげ返るハウルの枕辺に寄り添うソフィー。ハウルはソフィーにうち明けます。自分は怖い、王様が他国へ仕掛けた戦争で魔法使いとして果たすべき責任感が自分には欠けていると。そしてソフィーに、自分の母のふりをして王室付き魔法使いサリマンに会い、自分は戦いを拒否すると伝えてくれるよう頼むのでした。



「メイとトトロのお昼寝」、カーペット制作サイズ、7.36 m × 4.3m  
© 1988 Hayao Miyazaki/Studio Ghibli

## となりのトトロ、1988

機織り開始: 2025年初め  
織り上がり: 2026年夏

### 場面の概要:

庭のトンネルで不思議な小さな生き物を追いかけていたメイは、父の目を盗んで地下の洞穴へと落ちてしまいます。そこで彼女が出会うのが、森の大きな守り神であるトトロ。トトロは眠っており、メイもその巣穴で繁茂する草木に囲まれながら、一緒にお昼寝をします。



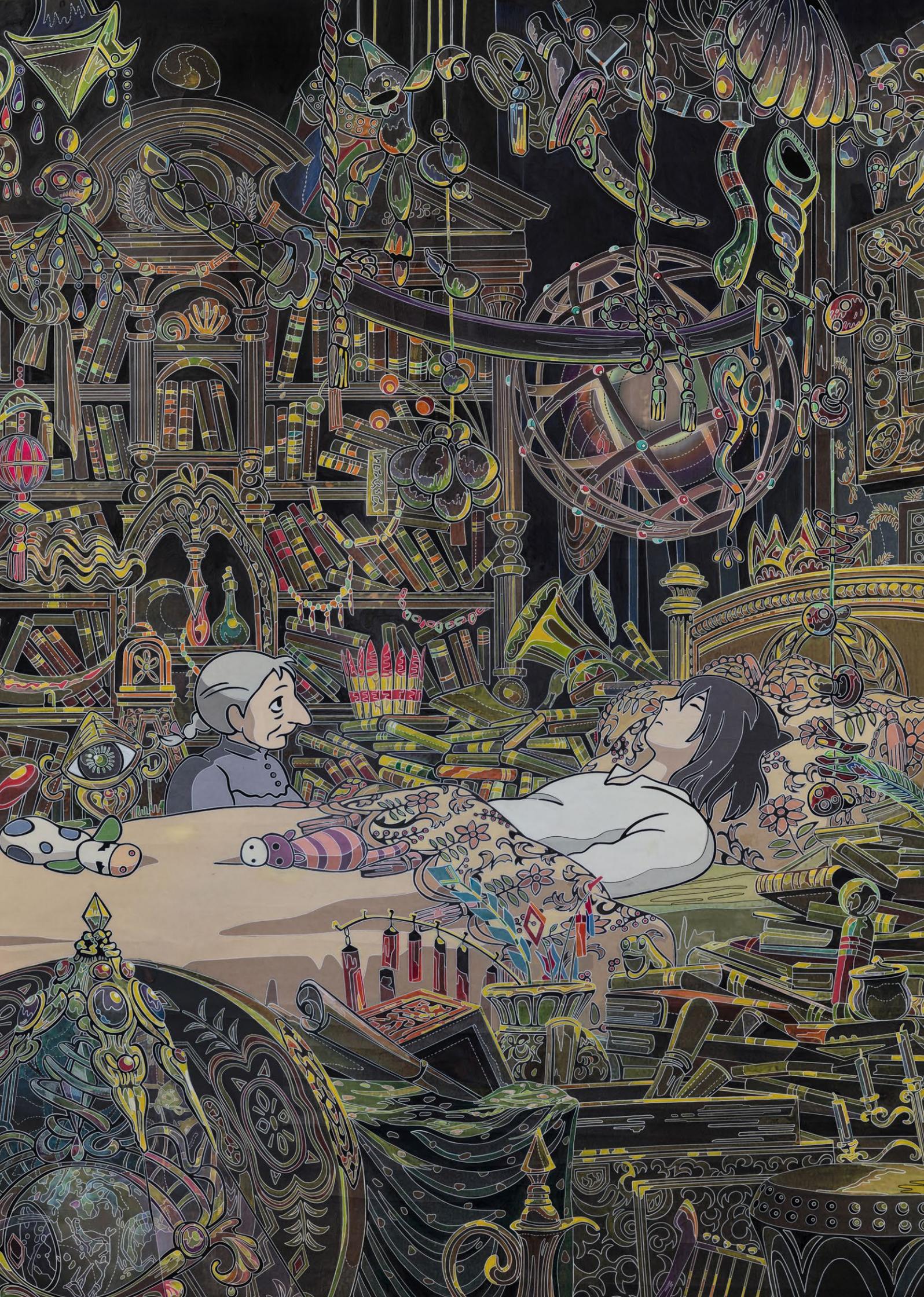
「腐海」の秘密」、タピスリー制作サイズ 6.5 x 3.5 m © 1984 Studio Ghibli-H

## 風の谷のナウシカ、1984

機織り開始: 未定  
織り上がり: 未定

### 場面の概要:

トルメキア帝国に追われたアスベルとナウシカは、巨大な有毒の森「腐海」に落ち、ある発見をします。地中では、石化した樹木が千年前の戦争で人間によって汚染された大地と水を浄化していました。アスベルの復讐計画には加わらず、ナウシカは「腐海」に対する自身の直感に導かれながら、自らの道を進んでいきます。



# 組み物タピスリーの制作過程

## タピスリーの下絵にする 図柄を選ぶ

宮崎駿の作品を題材にした組み物タピスリーの制作はひとつの挑戦でした。アニメ映画の映像を、繊維でできたタピスリーという静止画にするというのは前例のないことなのです。タピスリーとして成り立ち、かつ宮崎駿の世界を表現できる絵を選ぶというのが最初の難関でした。アニメではもちろん画面は常に動いており、比較的広い範囲を表す絵の中で画像が静止した場面というのはまれだったのでこの作業では私たちは17世紀の文学作品を基にした組み物タピスリーを参考にしました。そこでは作者は物語の流れの中のある一瞬を選んで具現化し、絵柄の総体を組み立てていました。宮崎駿の作品をタピスリーとして織り上げるという作業の特異な点は、宮崎の信じられないような空想世界に私たちを引き入れるような場面をタピスリー上に創造しなくてはならないという点でした。

## 組み物タピスリーの技術面を 考察する製織委員会

組み物タピスリーの制作に先立って、下絵師、織り師、国際タピスリーセンターの技術陣から構成される製織委員会が立ち上げられ、各タピスリーの最終的な形状の決定、下絵の技術的解釈の検討、素材と質感の選択などに当たりました。

## 縮尺を変える

タピスリーは本来非常に大きなサイズの表現媒体です。織り手たちの作業の手引となる下絵の制作は、将来のタピスリーを作るための単なる拡大版であってはなりません。下絵がアニメ映画から引用された場面であればなおさらです。国際タピスリーセンターの学芸員たちは、この転換作業を以下のように言い慣わしています。「それは単なる拡大作業ではない、織り手たちはよく言っている“デッサン上のごく小さなバラの花から始めたとして、それをよく考えもせず愚かしくも単に拡大だけしていったら、出来上がるのはキャベツだ” 拡大するにしても原画のエスプリが見出せるものでなければならぬ。技術的要素は全体をとらえて考慮に入れなくてははいけない」

見本作りという作業も色や質感等を体感するために非常に重要です。これらの見本によって、その後何ヶ月も続く織り作業の段取りが決定されるのです。



## シリーズ第1弾のタピスリー制作



国際タピスリーセンターのアトリエで「呪いの傷を癒すアシタカ」を制作するアトリエ・ギヨーの職人たち  
© Cité internationale de la tapisserie, 2021

### 織り作業

タピスリーの第1弾「呪いの傷を癒すアシタカ」の制作はアトリエ・タピスリー・ギヨー・オービュッソンに託されました。

織り作業は国際タピスリーセンター内の3つのアトリエのひとつで行われたためガイド付き見学コースに参加すれば、作業の様様を見学したり、織り手たちと交流するのも可能でした。

織り作業は2021年3月7日に始まり、約1年かけて23 m<sup>2</sup> (5m x 4m60)の巨大なタピスリーが完成しました。

### タピスリーの完成

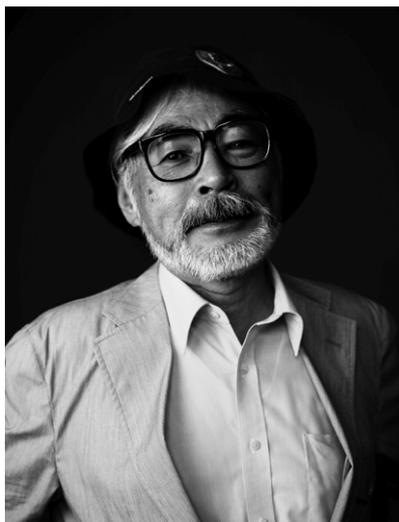
宮崎駿シリーズ最初のタピスリーは2022年3月25日に織り上がって織機から切り離され、国際タピスリーセンターでお披露目されました。このイベントは日仏の多くのテレビ局で放送され、国際タピスリーセンターのYouTubeチャンネルでも実況中継されて1万4000回の視聴があり、これはすべてのタピスリーの歴史の中でも最も注目を集めた完成披露会となりました。

この巨大なタピスリーは、その光の差し具合、奥行き感、宮崎駿作品の尊重のどれを取っても非常に見事なものです。

国際タピスリーセンターで行われたこの特別な完成披露会には、元駐フランス日本国大使伊原純一閣下もご臨席くださいました。



国際タピスリーセンターに展示された「呪いの傷を癒すアシタカ」のタピスリー  
© Cité internationale de la tapisserie, 2022



Hayao Miyazaki © Festival de Cannes

## 宮崎駿プロフィール

宮崎駿は1941年東京生まれ。学習院大学政経学部卒業後、東映動画にアニメーターとして入社。高畑勲の下でアニメ『太陽の王子ホルスの大冒険』(1968)の制作に当たる。1971年には高畑とともにアニメスタジオAプロダクションに移籍し、『パンダコパンダ』(1972)の脚本、原画、アニメを担当。宮崎駿は複数のスタジオで働いたが、高畑とともにズイヨー映像(後の日本アニメーション)、テレコムでも仕事をし、TVアニメ『アルプスの少女ハイジ』(1974)、『母をたずねて三千里』(1976)の制作に参加。初のTVアニメシリーズは『未来少年コナン』(1978)。次に初の監督作品『ルパン三世 カリオストロの城』(1979)を発表。1984年には自身が雑誌「アニメージュ」に連載していた同名の漫画を原作に『風の谷のナウシカ』の脚本、監督。

宮崎駿は高畑勲とともに1985年スタジオジブリを設立。10本のアニメ映画を制作した。その中には『天空の城ラピュタ』(1986)、『となりのトトロ』(1988)、『魔女の宅急便』(1989)、『紅の豚』(1992)、『もののけ姫』(1997)がある。『千と千尋の神隠し』(2001)は日本映画のあらゆる記録を塗り替え、2002年のベルリン国際映画祭で金熊賞、アカデミー賞の長編アニメーション映画賞など多くの賞を獲得し

た。『ハウルの動く城』(2004)は2004年ヴェネツィア国際映画祭で技術貢献賞を受賞。

宮崎駿自身にも、2005年のヴェネツィア国際映画祭でその映画界でのキャリア全般に対し栄誉金獅子賞が授与された。『崖の上のポニョ』(2008)では原作、脚本、監督。米林宏昌監督の『借りぐらしのアリエッティ』(2010)や長男宮崎吾朗の『コクリコ坂から』(2011)では脚本に参画。最近作『風立ちぬ』(2013)は同年アカデミー賞の長編アニメーション映画賞にノミネートされた。2014年11月には映画界における功績全般に対してアカデミー賞の名誉賞が贈られている。前作から10年後、2023年に公開された『君たちはどう生きるか』が大成功を収めた。

宮崎駿は『出発点1979～1996』(1996)など、デッサン集や詩集を含む多数の著作がある。建築デザインも多く手がけており、2001年に開園し自ら館主を務める三鷹の森ジブリ美術館もそのひとつ。2012年、宮崎駿は文化功労者に選ばれている。2014年7月にはウィル・アイズナー賞を受賞し、「漫画家の殿堂」入りを果たした。



オービュッソン・タピスリー

『ハウルの動く城』(夕暮れの動く城) 5 x 5 m

製織: Atelier A2, Atelier Just'lissières, 2023、国際タピスリーセンターコレクション

写真: Studio Nicolas Roger © 2023

映画『ハウルの動く城』© 2004 Studio Ghibli-NDDMTの一場面より



オービュッソン・タピスリー

『もののけ姫』(カオナシの宴) 3 x 7.5 m

製織: Manufacture Robert Four, 2023、国際タピスリーセンターコレクション

写真: Studio Nicolas Roger © 2023

映画『千と千尋の神隠し』© 2001 Studio Ghibli-NDDTMの一場面より



オービュッソン・タピスリー

『ハウルの動く城』(ハウルの恐れ) 3 x 5.60 m

製織: Atelier Tapisserie Guillot Aubusson, 2023、国際タピスリーセンターコレクション

写真: Studio Nicolas Roger © 2023

映画『ハウルの動く城』© 2004 Studio Ghibli-NDDMTの一場面より

# プロジェクトをめぐって

## 国際タピスリーセンターに宮崎駿の専用展示スペース

組み物タピスリーは制作の進行に合わせ、国際タピスリーセンターの見学コース内に設けられた宮崎駿の専用スペースに展示して行きます。

来訪者がこの並外れた文化遺産プロジェクトの世界に浸り切れるよう、2021年5月に新しい可変展示スペースが創設されました。

「オービュッソン、宮崎駿の空想世界を織る」の組み物タピスリープロジェクトは薄暗がりのスペースで展示しています。黒枠に縁取られたアート紙に描かれた将来のタピスリーのさまざまな下絵が、照明に照らされて展示されています。

組み物タピスリーは、国際タピスリーセンター以外の場所での展示予定に応じて、このスペースで順次展示されます。

将来的には国際タピスリーセンターの増築部分に専用スペースが設けられる予定です。

## 国際タピスリーセンター機織り工房の見学

現在国際タピスリーセンターの工房では、映画『となりのトトロ』に題材を取ったタピスリー「メイとトトロのお昼寝」の制作が進んでいます。これらの工房ではガイド付き見学コースが設けられており、機織りの作業を見たり織り手と交流することができます。

YouTubeのミニシリーズ「オービュッソン、リュックと姫」は『もののけ姫』の一場面を表したシリーズ最初のタピスリーの制作過程を、オービュッソンで修行中の若い織り手リュック（タピスリー織り手のひとり）の経験を通してたどれるものでした。

「リュックと姫」その1はこちら：<https://www.youtube.com/watch?v=-7WdDSCtDII>

## 織り上がりを祝う

「トンベ・ド・メティエ tombée de métier (織機からの降下)」とはタピスリー制作の最後の段階をいいます。関係者がひとりずつタピスリーの端の糸を切り、タピスリーを織機から切り離す儀式という形式をとります。織る作業は裏面から行うため、このとき初めてタピスリーの全貌を表側から見ることになるのです。

国際タピスリーセンターでは、今後も宮崎駿シリーズのすべてのタピスリーについて皆がイベントに参加できるようYouTubeを通じて「トンベ・ド・メティエ」のセレモニーを実況中継します。

国際タピスリーセンターのYouTubeチャンネルでの「トンベ・ド・メティエ」ライブ中継はこちら：  
<https://www.youtube.com/@CitArtAubusson>

## プロジェクト進行スケジュール

- 2020年10月16日: ボルドーのMECA（創造経済文化会館）で企画を公式発表

- 2020年10月17日: 国際タピスリーセンター内に本プロジェクト専用スペースオープン

- 2021年3月7日: アニメ映画『もののけ姫』の一場面を基にしたシリーズ最初のタピスリー制作開始

- 2022年3月25日: 『もののけ姫』による第1のタピスリー完成披露

- 2023年1月20日: 『千と千尋の神隠し』による第2のタピスリー完成披露

- 2023年4月21日: 『ハウルの動く城』による第3のタピスリー「夕暮れの動く城」完成披露

- 2023年6月16日: 『ハウルの動く城』による第4のタピスリー「ハウルの恐れ」完成披露

- 2023年3月～5月: ボルドー大劇場にて『もののけ姫』のタピスリー展示

- 2023年6月～8月: パリのケ・ブランリ美術館にて『もののけ姫』のタピスリー展示

- 2023年9月～12月: ボルドー・グランパルクの市民ホールにて『ハウルの動く城』より「夕暮れの動く城」のタピスリー展示

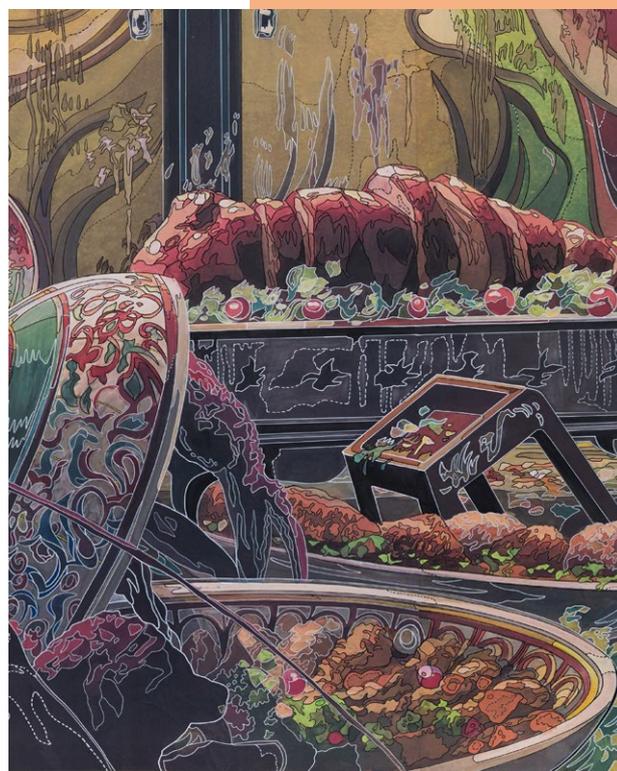
- 2024年6月～9月: 広島県立美術館にて『ハウルの動く城』より「夕暮れの動く城」のタピスリー展示

- 2024年10月～2025年1月: ボルドーのコーデラン・メディアテークにて『千と千尋の神隠し』より「カオナシの宴会」のタピスリー展示

- 2025年4月～8月: 名古屋の愛知県立美術館にて『千と千尋の神隠し』より「カオナシの宴」のタピスリー展示

- 2025年4月～10月: 大阪・2025年国際博覧会フランス館のエントランスにて『もののけ姫』のタピスリー展示

組み物タピスリー完成は2026年末。



# 組み物タピスリーの制作過程

## 組み物タピスリーの全体について

- アニメ映画の中から使用する画像を選ぶ
- 各タピスリーの最終的な形状を決定
- グアッシュ絵具で織り糸を染めるさまざまな色を作る(原画に忠実に)

## 個々のタピスリーについて

- 「タピスリーの下絵」のコード化(下絵は織り手が織機で作業するときのガイドとなる)。
- 糸(ウール、絹、麻)とその太さを選択。それにより下絵の描き方の技術的詳細が決まる。作品のサイズと合わせ、糸の直径で制作の所要時間とコストを見積もる。
- 最低2点の見本を制作し、方向性を決め、選択をする。
- アトリエや工場に募集をかけ、見本の作製とタピスリー制作のプロポーザルを募る。
- クルーズ県内の様々なアトリエ、工場から募集に応じて提出された見本作品を審査して担当業者を選定し、タピスリー制作にかかる。
- 選定された業者のアトリエもしくは国際タピスリーセンター内のアトリエで織り作業。
- タピスリーの完成披露。「トンベ・ド・メティエ(織機からの降下)」とよばれるこのイベントはしばしば著名人が司会進行に当たる。イベントの様子は国際タピスリーセンターのYouTubeを始めとする各種SNSでも実況中継。各作品の完成披露日程は左記の通り。
- 仕上げ作業(裾の処理、吊り下げシステム)。
- 展示開始(会場に吊り下げ)。





# 実用情報と連絡先

## Cité internationale de la tapisserie – Aubusson

Rue des Arts - BP 89  
23200 AUBUSSON

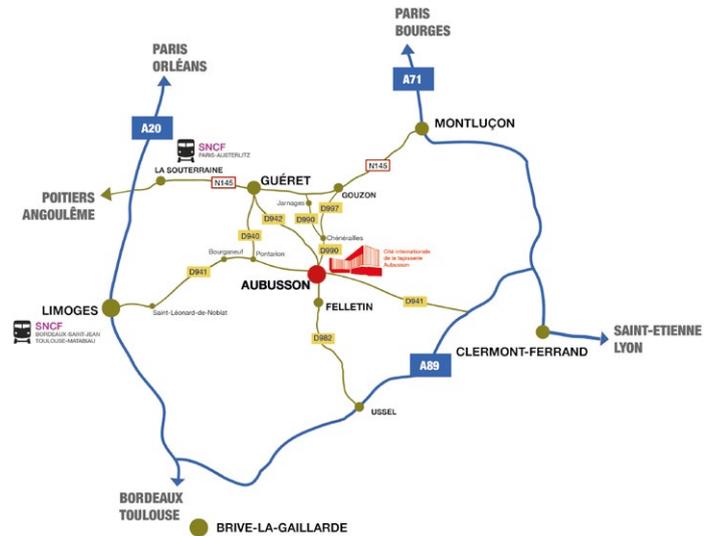
[www.cite-tapisserie.fr](http://www.cite-tapisserie.fr)

 @CiteAubusson

 @CiteTapisserie

 @citetapisserieaubusson

 @cite-internationale-de-la-tapisserie



### パリからのアクセス

- ・パリ・オーステルリッツ駅 (Paris-Austerlitz) からBrive方面の都市間急行 (Intercite) に乗車し、La Souterraineで下車。
- ・La Souterraine駅からAubussonまでTER運行によるバス。

### 入場料

正規料金 9 €

割引料金 6.50 €:

学生、25歳未満、65歳以上10人以上の団体、carte Cézam 保持者 ...

無料:

18歳未満、ICOM (国際博物館会議) カード、carte de presse (プレスカード) 保持者...

### 開館時間

9月～6月

9:30 ~ 12:00、14:00 ~ 18:00

火曜休館

7月～8月

10:00 ~ 18:00

火曜午前中を除き毎日開館

### ガイド付き見学

ガイド付き見学は要予約:

所要時間: 1時間 ~ 1時間半

問合せは受付まで

+ 33 (0)5 55 66 66 66

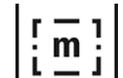
(代表番号にかけて2をチョイス)

無料のガイド付き見学:

7月、8月の 10:30、15:00

センター内のアトリエ見学:

問合せは受付まで





Cité internationale de  
la tapisserie Aubusson

**日本: Atout France Tokyo**

Mayumi Masuda 増田真由美  
mayumi.masuda@atout-france.fr

**フランス: Dézarts**

[agence@dezarts.fr](mailto:agence@dezarts.fr)  
Anne-Solène Delfolie  
+33 (0)6 78 84 63 42  
Anaïs Fritsch  
+33 (0)6 62 09 43 63

**Cité internationale de la tapisserie**

Héloïse Gorse Fénelon  
[heloise.gorse@cite-tapisserie.fr](mailto:heloise.gorse@cite-tapisserie.fr)  
+ 33 (0)9 72 48 15 64  
+ 33 (0)6 80 18 35 79